

## カトリック香里教会 主の洗礼 2021年1月10日

そのとき、ヨハネはこう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。わたしは水であなたたちに洗礼を受けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」

そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。水の中から上がるとすぐ、天が裂けて「霊」が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

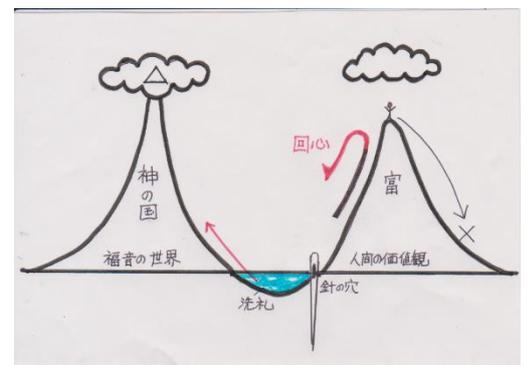
—マルコ 1 章—



# 主の洗礼

イエスは全人類の罪を背負って、水に沈み（＝すべての罪に死んで）、水から上がられ（＝新しいいのちで）、「御父のみ旨を生きる人」を人類に示されました。私たちがイエスの生き方を学び、父の愛する子どもとなって、父が待つ御国に帰ることが出来る人となるために。「洗礼」は神の招きに対する私たちの応答であり、それは、結婚に似て、キリストに倣った、私たちの生涯の生き方を約束する宣言です。「御国」は自動販売機ではありませんから成人は通常、一年をかけてキリストの生涯の「生き方」をしっかりと学ぶのです。

ところで、人の生き方を方向付けているのは、「その人の価値観」です。ですから、キリストに倣うためには、自分の価値観を見直さなければなりません。すべての人は「価値」を求めて生きていますが、それは愛されるためでしょう。愛（＝大切にされること）はいのちが切に求めているものであり、愛されなければ生かされないという「いのちの原理」が人にはあるからです。命が生きるために私たちは何に「価値」を求めているのかが「洗礼」で問われているのです。“人は神と富とに仕えることは出来ない”水から上がったイエスに「これは私の愛する子。これに聞け」と声があったのは、イエスが求める唯一の価値が「神お一人」であることの証しでした。私たちがイエスに倣いきれない最大の原因は、私たちの本性にあるようです。すなわち、自己保身、自己中心性であるエゴイズム（自我）です。命が生きるための価値を神に求めるためには、私たちもキリストに倣って自我に死ななければならないのです。



ここに「二つの山」があります。一つは神に到達しており、もう一つの山は神と永遠の断絶がある富の山です。洗礼とは、富に向かう人間の価値観の山を下り、針の穴をくぐり水に沈めて自我に死ぬこと、そして聖霊の命に生まれ変わって神に至る福音の世界に生きる道を意味しているのです。回心して通る「針の穴」をイエスは説明します。“金持ちが神の国に入るより、ラクダが針の穴を通る方がまだ易しい”と。私たち信仰者は、この針の穴を通った「神に愛された子」であることを忘れないようにいたしましょう。

2021年1月10日 主任司祭 昌川 信雄